

茨木市内の学校のバリアフリーについて調査いたしました。

調査にあたっては、地域の防災訓練が学校で実施され参加した事や2018年に大阪北部地震で学校に避難して利用しにくい事が分かり、茨木市内の学校のバリアフリー調査を2019年7月にいたった。2019年7月4日～7月9日の期間で、中条小学校、中津小学校、大池小学校、茨木小学校の4校を実施。

課題

- ・学校の校門、体育館、トイレ、教室の案内図が分かりにくい。また、特性に応じた情報提供が必要である。
- ・避難所の体育館について、出入口が段差解消されているところが1カ所であるため、複数個所に段差解消が必要である。
- ・トイレの和式が多く、洋式が十分では無いため、非難された方のトイレ確保が必要である。
- ・バリアフリースイート（多目的トイレ）にはオストメイト・多目的シート、ベビーチェアがない、電動車椅子の切り替えができない、トイレが狭く介助がしにくい事もあり、十分な広さが必要である。
- ・教室や会議室の段差解消が必要である。

バリアフリー基本構想協議会では

- ・学校の利用については、当事者が利用できるバリアフリーであるところは言い難く、当事者が参画して、誰もが利用しやすいバリアフリーを希望する。
- ・今回は4校の調査であったが、小学校・中学校・高校計画を立てて調査を希望する。
- ・校内・学校の周りもバリアフリーの調査を希望する。

以下、学校の調査資料



写真1
大池小学校の正面前



写真2
中津小学校の正面前



写真3
中津小学校の体育館
出入口が2階で一箇所



写真4
茨木小学校の体育館
車椅子で出入口は一箇所のみ



写真5
大池小学校の多目的トイレ
電動車椅子の切り返しが難しい
トイレ介助がしにくい



写真6
中条小学校の多目的トイレ
オストメイト・ベビーチェアー・
多目的シートの不足



写真6
中津小学校の和式トイレ



写真6
茨木小学校の教室 段差14cm